

2.(2) ホシノベトナム工場

項目	詳細
訪問場所	ホシノベトナム工場
訪問日時	平成 26 年 11 月 13 日(木) 13:30 ~ 15:00
概要	<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生地裁断、縫製、折畳までを行う自動車用エアバッグクッションの生産。 <p>沿革（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 12 年 1 月 自動車用エアバッグクッション縫製の一部をベトナムにて生産開始。（現地企業へ委託） 平成 16 年 12 月 ホーチミン市に自動車用エアバッグクッション縫製工場として、HOSHINO(VIETNAM)CO.,LTD.を設立。 平成 20 年 6 月 HOSHINO(VIETNAM)CO.,LTD.の新社屋が完成し移設完了。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>工場正門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>従業員用駐輪場脇で放牧中の牛</p> </div> </div> <p>調査内容</p> <p>会社概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ホーチミン市・ピンロック工業団地（開発会社：ピンロック工業区有限会社）内に立地。工場社屋は 2 階建て。 従業員数は 2014 年 2 月時点で 654 名。現在は他の事務所分を含め 800 名弱。 課長以下がベトナム人従業員。 製造品目は 5 種類のアエアバック。（運転席、助手席、サイド、膝、カーテン） 納入先は、日本のほか、アメリカ、メキシコ、マレーシア、タイ、インド、中国。エアバックユニットの最終製品とするためのメーカーに納入。 <p>生産体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産ラインの流れは、1 階で生地（ロール状）の受け入れ、保管 裁断、パーツ分けの後、2 階で組み合わせ 縫製 検品 包装。 日本のホシノ工業では、もともとはエアバック生地も製造していたが、紡績会社が参入したことで競争できず、生地は紡績会社から仕入れ、縫製部分のみを残した。 決められた順番通りに製品を仕上げないと、工程のポイントに製品が通過した際に、コンピューター管理のブザーが鳴る仕組みとなっている。 作業場の電光掲示板により、1 日の生産目標、現時点での生産量、差し引き量（不足量）が表示され、一目で分かるようになっている。

管理体制

- ・日本人駐在は3名だが、まじめな国民性から労務管理における困難さはない。
- ・現地スタッフの管理職は設立当初からの雇用者で、業務形態を十分承知している。
- ・従業員の男女比率は、男性2：女性8。
- ・従業員の定着に関して、大きな割合を占める女性従業員は、産休明けに復帰しないケースが多い。
- ・月給は250～300USD（日本円で約3万円）で、平均より高め。専門職、技術職はこれ以上。
- ・最低賃金が上昇しているが、同率で会社全体の賃金も上げるよう要求される。
- ・社員の福利厚生として、創立記念日は休日とするほか、社員旅行を実施。
- ・社員旅行は毎年実施している人気の行事で、今年は、ホーチミンから約10時間かかる南シナ海に面したニャチャンに大型バス12台を仕立てて実施し大盛況であった。

その他

- ・工業団地内に日本の企業の立地は数社。
- ・日本における生産では、高額な設備を入れてほぼオートメーション化。
- ・ベトナムでの生産は、安価な設備と労働力に依っている。
- ・従業員募集は、従業員からの口コミで広まるため、求人情報誌や新聞広告への掲載はせずに工場での張り紙のみで済む。（専門職、技術職は別）
- ・2015年にASEAN経済共同体が発足することに伴い、2010年1月AFTA（ASEAN（東南アジア諸国連合）の自由貿易協定）のもとで、ASEAN6（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム）の関税を撤廃済みだが、CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）については2015～2018年で撤廃予定とされている。



工場内を視察



事業概要の聞き取り